



広島版

学びから始まる 地域づくりプロジェクト コーディネーター研修



ばれっとひろしま

広島県立生涯学習センター



ねらい

向上させたい能力 ▶ コーディネート能力の向上

- 地域の課題や将来像を共有し、地域住民が当事者意識をもって協働して地域課題解決学習に取り組むことができるよう、学びと活動が好循環する施策・事業を企画・実践する。
- 人づくり・つながりづくりを通じた地域づくりの基盤を、他部局や多様な主体と連携・協働しながらともに構築する。
- 地域内外の多世代・多目的・多様なたくさんの人や組織が乗り入れ、オープンでフラットなプラットフォームとして機能する場を提供する。

日程・内容

第1回（本日）

時間	内 容	学習支援者
13:00～	オリエンテーション・アイスブレイク	
13:10～	○国・県の動向 ○広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」の概要	広島県立生涯学習センター 社会教育主事 松田 愛子
14:10～	○東広島市の生涯学習・社会教育施策について	東広島市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 福永 崇志
14:40～	○「ひろプロ」企画シート作成（プレ演習）	広島県立生涯学習センター 社会教育主事 松田 愛子 東広島市教育委員会生涯学習課 社会教育指導員 土生 士郎
15:50～	事務連絡・振り返り (16:00終了)	

今後の日程

第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
7/22（月）	8/23（金）	9/20（金）	10/23（水）	
企画シート作成① （県の研修に参加）	企画シート作成② （リデザイン）	企画シート作成③ （プレゼン準備）	AM 研修成果発表	PM 全体研修へ参加



この研修で大切にしたい 5つの視点

- ① **自分を見つめ直し**，**振り返り**しましょう。
- ② **相手から聞き出す力**を育て合いましょう。
- ③ **広い視野**と**当事者意識**を持ちましょう。
- ④ **意見や考えの違いを乗り越え**，**他者と協働**しながら，**課題解決**に取り組みましょう。
- ⑤ **学んだことを仕事に生かす意識**を持って，**参加**しましょう。

広島版 学びから始まる 地域づくりプロジェクト

—こんなプロジェクトです—

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称:ひろプロ) 支援事業

趣旨

地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」(※)が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。

※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の公民館類似施設を含む。

現状と課題

- ▶ 「高齢者の趣味・教養のたまり場」というイメージが定着し、利用が活性化していない。(利用者の減少・固定化)
- ▶ 多様な取組が行われているが、学びの成果を地域課題解決につなげる具体的な仕掛けやノウハウの蓄積がない。

→ 市町の取組格差あり

目指す姿

- ▶ 地域の多様な世代の人々(機関・団体等を含む。)が「公民館」に集い、豊かなつながりや学び合いが生まれている。
- ▶ 「公民館」がコーディネート機能を発揮し、住民の主体的な学びを通じた地域課題解決の取組を促進するための地域ネットワークの中核拠点となっている。

→ 市町の現状・課題に応じた県の支援

新たな取組の概要

- 住民の主体的な学びを通じた地域づくりの推進に向けて、社会や地域の課題解決と学びをつなげる「学習プログラム」のモデルを実証開発。

「ひろプロ」のコンセプト

- ① 広島モデルを実証開発(オール広島)
- ② 実践の拠点は「公民館」
- ③ アレンジ自由・成長性・発展性
- ④ 体験型・参加型・参画型
- ⑤ 連携・協働・共創

- プログラムをアレンジして各地域の実態に応じたプロジェクトをコーディネートできる人材(「公民館」職員等)を育成。

- 地域資源(社会資源)である「公民館」を活用し、行政(首長部局)や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等の多様な主体と連携・協働しながら、地域住民が主体的に参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクトとする。

- 県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性(有用性)を生かす仕組みを取り入れる。

→ 市町では対応困難な県域でのモデル的取組

具体的なイメージ

■ 「ひろプロ」の実証開発

◆ 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、地域のお宝発見、公民館エリア探検、ふるさとの未来・再考! フォーラム、これからの○○地区を考える会、未来づくりトークセッション...

◆ 地域の人材による家庭教育支援

子育てサロン・おしゃべりカフェ(地域の居場所づくり)、子育て講座(「親の力」をまなびあう学習プログラム講座等)、家庭教育支援チームの組織化、子育てサポーター・ファシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発...

◆ 地域の人材による地域学校協働活動の推進

公民館等を拠点とした体制整備・仕組みづくり、学校支援活動(学習支援、学校環境整備、登下校の見守り等)、放課後子供教室、地域未来塾、地域の人材発掘・育成(研修、人材バンク)、地域住民の理解促進・ビジョン共有...

◆ 地域の人材による社会的包摂の実現

地域子供食堂、○○公民館カレーの日、ユニバーサルカフェ、できること持ち寄りワークショップ、地域支えあいプロジェクト、セーフティネット学習会、地域支えあいマップづくり...

◆ 地域防災・減災の仕組みづくり

関係組織のネットワーク化、避難所運営の仕組みづくり、防災ワークショップ、防災キャンプ、防災フェスタ、防災運動会、子供防災士養成講座、避難所開設訓練、防災「ひろしまプログラム」、「みんなで減災」一斉地震防災訓練、ハザードマップ作成...

◆ その他(地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成)

若者やシニア世代の地域参画、地域行事活性化・地域の担い手育成、高齢者の健康・生きがいづくり、介護、多世代交流、グローバルリーダー育成、伝統文化継承、ふるさと教育、空き家対策、婚活支援、地域ブランド・特産品開発、コミュニティビジネス...

■ 学びを通じた地域づくりに関するコーディネート力の向上 (「ひろプロ」コーディネーター研修、モデル実践の支援)

- 「ひろプロ」の企画・調整・運営を務める職員対象の研修を実施
- 既存の「地域課題対応研修支援(訪問型研修)」の枠組を活用(拡充)し、市町の現状・課題に応じて、モデル実践を支援
- 「『ひろプロ』コーディネーターハンドブック」開発(調査研究)

■ 参加促進・成果発信・「公民館」のイメージ向上

- 事業成果発信による、新たな参加者層の巻き込み
- アイコン・イメージキャラクター等開発



「ひろプロ」マーク

現行の取組

公民館等活性化モデル事業 (H26~)

子供を含めた地域住民が公民館等に愛着と理解が持てるような活動に対して助成(企画の支援)【主催:県公民館連合会】
→ 認知度向上・活用促進・情報充実

訪問型研修 (H28~)

各市町の課題に応じた研修の実施について、県の社会教育主事が訪問して支援
→ 研修が必要な市町への働きかけ

公民館等取組事例集 (H28~)

公民館等の取組事例を収集し、HPで情報提供
→ 新たな好事例の開発・支援

コンセプト

- ① **広島モデルを実証開発（オール広島）**
 - ▶ 今、広島県の「公民館」がおもしろい！
- ② **実践の拠点は「公民館」**
 - ▶ “公民館”も“コミセン”も
- ③ **アレンジ自由・成長性・発展性**
 - ▶ 地域オリジナルの未来を描く
- ④ **体験型・参加型・参画型**
 - ▶ 住民の主体性や当事者性を育む
- ⑤ **連携・協働・共創**
 - ▶ プラットフォームとして機能する場づくり

社会課題 地域課題

少子高齢化・人口減少
 (人生100年時代)
 地域の担い手不足
 防災減災
 環境・福祉
 産業・雇用
 家庭教育支援
 学校支援
 貧困・教育格差
 伝統文化継承
 グローバル化...

地域住民



大学・学校

地域住民



民間企業

課題解決

地域づくり
 コミュニティ
 の活性化

- 地域の課題や将来像を共有
- 地域課題解決学習で住民をエンパワメント

- 学びの成果を地域課題解決へ
- 住民主体の協働のまちづくり

集う 学ぶ 結ぶ

生涯学習・社会教育関係職員

NPO・
地域団体

首長部局等



地域住民

市町
職員
社会
教育主事

「公民館」
職員

県
センター
社会
教育主事

地域住民

「ひろプロ」コーディネーター

地域資源（社会資源）の活用
 (公民館, コミュニティセンター等)

地域づくりのための
 新しいプラットフォーム
 としての
 「公民館」へ発展



※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の類似施設を含む。

学びを通じた地域づくりを支援する コーディネーター力の向上

広島版 学びから始まる地域づくりプロジェクト
「ひろプロ」
 広島版 学びから始まる地域づくりプロジェクト

**広島版 学びから始まる地域づくりプロジェクト
 コーディネーター
 ハンドブック**
 試行版

ぱれっとひろしま
 広島県立生涯学習センター



「ひろプロ」コーディネーター
 研修 (イメージ)

みんなでつくる・未来の〇〇プロジェクト (まるごと〇〇大学) 【〇〇公開版】

地域の現状・課題 (今の課題)
 ・高齢化が進む。自治体の減少
 ・若年者の地域参加意識の減少
 ・地域資源 (多世代間士の交流の場の不足
 ・心労等の課題) 増加。利用者の増加

目的 (目標達成の方向性、こんな地域にしたい)
 ・住民参加による地域づくりの推進
 ・若い世代の地域参加意識の向上
 ・学びを通して社会的に主体的に関わりあえる人材の育成
 ・心労等の課題 (若年世代の地域参加意識の向上)

【成果評価】
 ・プロジェクトの進捗状況
 ・参加者の満足度
 ・地域づくりの推進状況
 ・若年世代の地域参加意識の向上
 ・社会的に主体的に関わりあえる人材の育成
 ・心労等の課題 (若年世代の地域参加意識の向上)

【活動内容】
 ・プロジェクトの進捗状況
 ・参加者の満足度
 ・地域づくりの推進状況
 ・若年世代の地域参加意識の向上
 ・社会的に主体的に関わりあえる人材の育成
 ・心労等の課題 (若年世代の地域参加意識の向上)

【実施方法】
 ・プロジェクトの進捗状況
 ・参加者の満足度
 ・地域づくりの推進状況
 ・若年世代の地域参加意識の向上
 ・社会的に主体的に関わりあえる人材の育成
 ・心労等の課題 (若年世代の地域参加意識の向上)

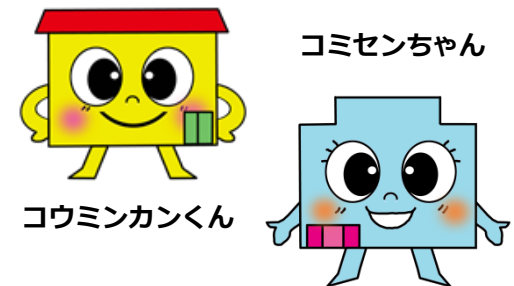
(イメージ)

モデル市町の実践支援
 (東広島市・世羅町)

「ひろプロ」モデルの実証開発



「ひろプロ」マーク



「ひろプロ」
 イメージキャラクター

ぱれっとひろしま [検索](#)

公民館等の実践事例①



府中市栗生公民館

(H29優良公民館表彰)

親と子の地域で過ごす サマーバケーション

- ・コミュニティ・スクールとの緊密な連携
- ・地元を離れた若者への呼びかけ



海田町海田公民館

(H29優良公民館表彰)

未来のまちの おせっかいさん養成講座

- ・子育て支援者(地域人材)の育成
- ・様々な地域課題解決の取組へ発展



東広島市志和生涯学習センター

(H29優良公民館表彰)

地域リーダー “たまご育て”事業

- ・地域づくりに主体的に参画する住民の育成
- ・多様な主体と連携した課題解決型学習



広島市古田公民館

(H30優良公民館表彰:最優秀館)

このまちにくらしたい プロジェクト

- ・中学生の参画
- ・ソーシャルデザインと人材育成



廿日市市串戸市民センター

(H30優良公民館表彰:優秀館)

ぼくのまち わたしのまち プロジェクト

- ・次世代のまちづくりへの関心
- ・シビックプライドの醸成



尾道市向東公民館

(H30優良公民館表彰)

防災フェアin向東 —地域を繋ぐ環・輪・和・話—

- ・公民館を核とした地域の防災力の向上
- ・繋がりがつくる元気なまちづくり

公民館等の実践事例②



大竹市立玖波公民館

(H26優良公民館表彰・**最優秀館**)

地域ジン 学びのカフェ

- ・地域住民同士の**つながり**を構築
- ・**地域課題**を住民とともに**学び解決**



廿日市市原市民センター

(H27優良公民館表彰)

子育てサポート事業

はらきっず&ママカレッジ

- ・**幼児期からの教育**を地域で支える仕組み
- ・信頼できる地域の**身近な人との交流**の場



神石高原町神石公民館

(H27優良公民館表彰)

いきいきふれあい教室

- ・郷土食の掘り起こしと地域への普及
- ・食の**伝統文化**を**次世代へ継承**



庄原市西城自治振興センター

(H28優良公民館表彰)

やすらぎプロジェクト

- ・**高齢者**の生きがいを**推進**
- ・地域づくりを担う**新しい人材**の育成



竹原市忠海東公民館

(H28優良公民館表彰)

世代間交流(地域交流)

忍者でふたまで体験

- ・子供の夢をかなえる**体験型**
- ・地域が育む子供の**人間性や社会性**



府中市協和公民館

(H26/27公民館等活性化モデル事業実践館)

地元の素材で和紙作り

- ・地域の**伝統文化継承**
- ・公民館を通じた**地域貢献活動**

「ひろプロ」で取組を期待するテーマ

- ① 地域の未来像を共有するための学びの場づくり
- ② 地域の人材による家庭教育支援
- ③ 地域の人材による地域学校協働活動の推進
- ④ 地域の人材による社会的包摂の実現
- ⑤ 地域防災・減災の仕組みづくり
- ⑥ その他
地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

地域みんなで☆子育て応援団プロジェクト（家庭教育支援チーム〇〇）【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・子育て中の親の養育力の低下
- ・家庭教育に関する身近な学びや相談の機会が乏しい
- ・家庭と地域のつながりの希薄化
- ・多様な世代の関わりが少ない

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・「親」の主体性を育み、支援の循環を生み出す学びの場づくり
 - ・子育て家庭を支える地域のネットワークと体制づくり
 - ・多様な世代が関わり合い、安心して子育てができる地域コミュニティの創造
- 親と子の育ちを応援する“つながり”と“学び”の場としての公民館



取組の概要

ポイント

- ① 「してあげる支援」から、親が親自身の力で育てていくための「力を引き出す支援」へ！
- ② 子育て家庭と多世代の交流による関係づくり（地域育ち・地域がひとつの大きな家族）！
- ③ 子育て中の親（当事者）や地域の人材で支援チームを立ち上げ（次世代の支援者を育成）！

準備期

- 子育て応援団プロジェクト・ワークショップの開催
 - ・地域内の子育て支援に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、一体的な家庭教育の推進を図る

試行期

- 家庭教育支援チーム（立ち上げ準備）キックオフ会議（企画会議：毎月1回定例会）
- 家庭教育講演会
- 子育ておせっかいさん養成講座（「親プロ」ファシリテーター養成講座）
 - ・次世代の支援者育成（→チームへの参加呼びかけ）

実施期

- 「子育てにっこりカフェ」（オープンスペース）開設
- ママとパパの子育て応援講座（4回講座） ■「親プロ」講座（主催講座、訪問型講座）
- 子育て応援ファミリーフェスタ（公民館まつりと合同実施）
 - ・「親プロ」体験ブース ・親子で楽しめる体験活動ブース ・子育てサークル紹介ブース等
- 「家庭教育支援チーム」の発足

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・講座等に参加した住民数
- ・家庭教育支援に関わった支援者等の数
- ・家庭教育支援チームの発足
- ★この地域で子育てしたいと思う住民数

【定性評価】

- ・家庭教育支援のネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・「親プロ」ファシリテーターの会
- ・健康福祉部局 ・民生児童委員
- ・〇〇地区自治協議会・社会福祉協議会
- ・地域の子育てサークル ・保育所、幼稚園、児童館、小学校、中学校、PTA ・老人会 ・女性

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

- ・家庭教育支援チームの活動促進、自立化支援 ・学齢期の子供の家庭への支援の充実
- ・つながりにくい家庭に支援をつなげるための、福祉部局や学校との連携の仕組みづくり
- ・子育てガイド・リーフレット作成 ・地元企業等との連携

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ワークショップ開催 キックオフ会議			準備期		家庭教育講演会
2年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議（毎月1回）」		子育てカフェ開設（毎週〇曜日）			子育て応援講座（4回講座）					
3年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議（毎月1回）」		子育てカフェ（毎週〇曜日）			子育て応援講座（4回講座）			ファミリーフェスタ開催		★家庭教育支援チームの発足

【参考情報】

- 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」（府中町）
- 向東地区家庭教育支援チーム「親ちから」（尾道市）
- 尾道市「すまいるぱれっと」（「親プロ」ファシリテーターの会）
- 未来のまちのおせっかいさん養成講座（海田公民館）

つながりプラットフォームプロジェクト（公民館カレー食堂）【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題
- ・家庭・地域の教育力の低下
- ・地域住民（多世代）の交流の場の不足
- ・地場産業（農業等）の担い手不足

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域全体で全ての子どもを育む仕組みづくりと多世代交流
- ・だれもが気軽に訪れ、集い、つながりあえる居場所づくり
- ・地元の食材や地場産業（農業等）への理解・愛着と将来的な担い手育成
→食（カレー）をテーマに、地域の誰もが集える“プラットフォーム”を創造



取組の概要

ポイント

- ① 経済的に厳しい、困難を抱える家庭の子どもだけでなく地域すべての住民（子供）を対象に！
- ② 既存の公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに（“動員”でなく“楽しんで”活動）！
- ③ お年寄りから子供まで、親しみやすく、誰もが大好きな「カレー」をテーマに事業展開！

準備期

■プロジェクトチームの組織化、事業企画ワークショップ開催

- ・関係団体・サークル等への説明と協力依頼
- ・協力者によるプロジェクトチームの組織化
- ・地域の実態や課題を把握・共有し、プロジェクトの展望を描くワークショップを開催。

試行期

■プロジェクト会議

■事業説明会（広報、周知説明）

■「公民館カレー食堂」試行（年間5回）

- ・公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに！

実施期

■「公民館カレー食堂」定例開催（毎月第1土曜日）

■公民館まつりへの出展・協力（成果発表）

- ・各団体のカレー試食ブース ・“こどもカレー食堂”開店！（中高生による主体的な運営）
- ・プロジェクトの紹介展示ブース

※輪番制で各団体のオリジナルカレーを創作
※地元の食材（規格外食材等）を農業法人等から提供協力

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・プロジェクトに参加した住民数
- ・協力団体（ボランティア）数や提供食材数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・〇〇地区自治協議会
- ・〇〇地区社会福祉協議会
- ・〇〇地区農業団体
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市（町）まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会（農業部会）予算
- ・「子ども食堂」関係の補助事業等活用
- ひろしまこども夢財団こども食堂支援事業、フードバンク…

発展・継続・関連

- ・“出張”公民館食堂の実施（他施設・他地域への出前事業） ・つながりにくい家庭へのアクセスの検討
- ・こどもカレー食堂の定例実施 ・学校や企業、団体等の連携の広がり継続 ・カレー以外のメニュー開発

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目										準備期		事業企画WS
2年目		事業説明会	公民館食堂①	公民館食堂②	公民館食堂③	公民館食堂④	公民館食堂⑤					
		PT会議①	PT会議②									PT会議③
3年目		公民館食堂（毎月1回）		実施期							公民館まつり	
		PT会議①	PT会議②									PT会議③

【参考情報】

- 浅原食堂（廿日市市浅原市民センター）
- 泉川公民館カレーの日（愛媛県新居浜市）
- 循誘公民館カレーの日（佐賀県佐賀市）の取組
- 各地の「子供食堂」の取組



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・地域住民の防災意識が低い
- ・災害発生直後の避難所(公民館)運営の仕組みがない
- ・高齢者、障害者、乳幼児(子育て)世帯等の孤立・支援

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・住民の防災意識の向上
- ・地域防災力による避難所(公民館)の開設
- ・災害時における地域での助け合いネットワークの形成(関係づくり)
→地域の安全・安心拠点としての公民館づくり



取組の概要

ポイント

- ① 「防災」という住民誰もが自分事となる共通課題への取組みを通じて、地域力を醸成。
- ② 既存の「地域資源」や「事業」を生かして、できるところから無理なくスタート。
- ③ 公民館が核となり、学校・家庭・地域の連携を通じて防災教育を幅広く推進。

準備期

- 防災教育ネットワーク会議の組織化、防災ワークショップの開催
 - ・地域内の防災・福祉・教育に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、一体的な防災教育の推進を図る。

試行期

- 避難訓練・防火訓練 ■ 救命救急講習
- チャレンジ防災○○ウォークラリー
- 災害時避難所開設訓練(HUG避難所運営ゲーム)
- 「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」参加(毎年11月)

実施期

- チャレンジ子ども○○防災キャンプ
- チャレンジ防災フェスタ(公民館まつりと合同実施)
 - ・防災プロジェクトの紹介 ・ハザードマップ等の掲示
 - ・防災工作教室, 防災紙芝居, 防災カルタ ・消防車展示(消防車と記念撮影)

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・地域防災活動等に参加した住民数
- ・△△市防災情報メールの登録者率
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・○○公民館(プロジェクト主管)
- ・○○地区自治協議会
- ・○○地区社会福祉協議会
- ・○○地区自主防災会
- ・保育所, 小学校, 中学校, PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会(防災部会)予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

- 体験型防災学習の充実
 - ・クロスロードゲーム ・DIG(災害図訓練) ・「防災キッズ」養成講座
 - ・防災教室「ひろしまJプログラム」 ・防災運動会(○○地区運動会と合同実施)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ネットワーク会議立ち上げ キックオフ会議①		準備期 NW会議②			
2年目	避難訓練, 防災訓練 NW会議①	試行期		救命救急講習 NW会議②			防災ウォークラリー 一斉地震防災訓練			避難所開設訓練 NW会議③		
3年目	避難訓練, 防災訓練 NW会議①	実施期		救命救急講習 NW会議②		防災キャンプ	防災フェスタ 一斉地震防災訓練			避難所開設訓練 NW会議③		

【参考情報】

- 地域における防災教育の実践に関する手引き (内閣府)
- チャレンジ防災in原(廿日市市原市民センター)
- 防災研修&炊出訓練(庄原市口和自治振興センター)



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画
- ・ 地域住民(多世代)間交流の機会の不足
- ・ 公民館の貸館状態化, 利用者の固定化

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画の促進
- ・ 地域住民の絆づくり, 地域ネットワークの形成
- ・ 公民館の利用活性化

→リノベーションの力で、公民館が変わる！地域を変える！



取組の概要

ポイント

- ① リノベーションの力で、公民館が変わる！地域を変える！
- ② 普段あまり公民館を利用しない、男性や中高年世代の参画を促進！
- ③ 地域の企業・商店、専門家、既存の施設・事業など地域資源を最大限に活用！

準備期

- 思いを共有するためのワークショップ
 - ・ こんな地域をつくりたい, こんなことがしてみたい, こんな施設をつくりたいなどの思いを共有

■ リノベ公民館キックオフ会議→プロジェクトチーム立ち上げ

- ・ ワークショップ参加者を中心にプロジェクトチームを立ち上げ

■ プロジェクトチームによる企画会議(事業計画立案)

■ 日曜大工講座 (既存事業の活用・拡充)

■ リノベーション講座(ワークショップ)全5回

- ・ 地域の企業・商店、専門家等の協力を得ながらリノベーションに関する知識・技能を習得
- ・ 日曜大工講座の参加者を中心に、男性や中高年世代の参画を促す

■ リノベーション開始

- ・ 公民館の老朽化した部屋などをリノベーション

■ 〇〇まちづくりキャンパスオープン

- ・ リノベーションした部屋を活用した事業開始
- ・ 交流カフェ, ミニマルシェ, 子供体験講座など…

■ リノベーション ステップアップ講座

- 資材・機材や技術指導等は地元企業の協賛を得る。
- 働く世代の方が空き時間を利用して自由に活動できるよう、休日や夜間の会場開放を検討する。
- 地元の若者(中高校生等)の協力を得られるよう、学校と連携する。

試行期

実施期

発展・継続・関連

- ・ まちづくりキャンパスの事業充実
- ・ 地域内の新たなリノベーション施設の開拓
- ・ 新たな協力者層の巻き込み

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・ プロジェクトへ参加した住民数 (男性, 中高年世代)
- ・ 公民館等の利用者数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・ 地域内ネットワークの構築
- ・ 地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・ 〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・ 〇〇地区自治協議会
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ 中学校, 高等学校, PTA
- ・ 地元協賛企業 (ホームセンター, 工務店等)

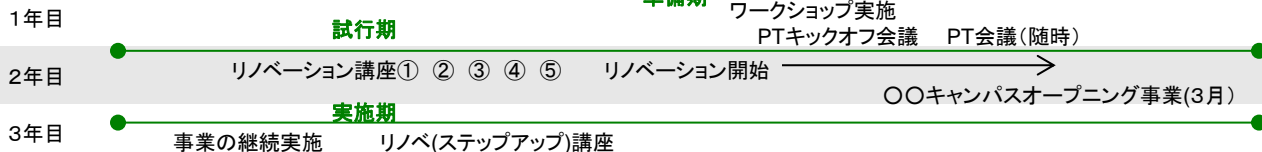
運営財源・活動資金

- ・ △△市まちづくり支援事業補助金
- ・ 公民館主催事業予算
- ・ 地元企業 協賛金 ほか

【参考情報】

- マスダひとまちカレッジとよかわキャンパス (島根県益田市豊川地区つろうて子育て推進協議会)
- 泉佐野丘陵緑地「パークレンジャー養成講座(パーククラブ)」(大阪府豊泉佐野丘陵緑地パークセンター)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



持続可能な開発目標 (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう




6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

**「ひろプロ」
企画シートを
作成してみよう！
(プレ演習)**

演習の進め方

- ① 演習の進め方・企画シートの作成について**説明**
- ② 持参した「**分析シート**」をもとに，
各自で「**企画シート**」を作成
- ③ グループ分け（希望優先）
- ④ グループ内で発表，**相互評価**（意見交流）
- ⑤ **全体発表**（※途中休憩）
 - ▶ 分析シート・企画シート回収（コピーして返却）

選択テーマ

③地域の人材による地域学校協働活動の推進

地域（市・町 地区）の概要や関係施策・事業の現状と課題分析

【記入例】

地域の現状・課題 (今の地域)	地域課題解決の方向性 (こんな地域にしたい)	既存(現在・過去)の施策・事業		地域の資源 (ヒト, モノ, コト, カネ…)	施策・事業の改善や 新たな取組の方向 (可能性)
		地域課題に関連する 公民館等の施策・事業 (取組名, 内容, 成果・課題)	関連行政・学校・ 民間・団体等の施策・事業 (取組名, 内容, 連携の有無)		
<p>○少子化・核家族化の進展 ・人口総数 ▲▲▲人 ・年少人口(割合) ▲▲▲人(▲%) ・生産年齢人口(割合) ▲▲▲人(▲%) ・老年人口(割合) ▲▲▲人(▲%) ・世帯数 ▲▲戸 ・一世帯当たり人員 ▲人</p> <p>○地域のつながりの希薄化</p> <p>○地域格差・経済格差の進行 ・事業所数</p> <p>○学校を取り巻く問題の複雑化・困難化 ・小学校 児童数 ▲人 ・中学校 生徒数 ▲人 ・高等学校 生徒数 ▲人</p> <p>○公民館利用の活性化 ・年間開館日数 ・主催講座数 ・利用者数(うち主催事業分) ・利用の実態(世代別利用割合, 特色ある事業)</p>	<p>○住民参画による地域ビジョンの形成・共有</p> <p>○若い世代の地域貢献活動の活性化・世代間交流</p> <p>○学びを通して社会に主体的に関わり行動する人材の育成</p> <p>○地域と学校が連携・協働して地域で子供を育てる体制の整備</p> <p>○大人も子供も学び合い、育ち合う地域づくりの実現</p>	<p>○夏休み体験講座▲▲キッズ ・子供の体験教室(活動…) ・参加者が集まらない ・学校との連携が希薄</p> <p>○学校の施設見学, 体験学習の受け入れ</p> <p>○公民館まつり ・公民館団体利用者の成果発表 ・参加者の減少, 高齢化・固定化 ・担い手不足</p>	<p>○学校行事 (文化祭, 運動会, 防災訓練, 地区懇談会)</p> <p>○地域主催事業 (文化祭, スポーツ大会, 防災訓練, ○○祭り)</p> <p>○▲▲課主催 (こども▲▲博士講座)</p> <p>○図書館主催 (読み聞かせ講座)</p> <p>○市政出前講座 (「親の力」を学びあう学習プログラム講座)</p> <p>○まちづくり協議会 (青少年部会)</p>	<p>【ヒト】 ○住民(キーパーソン, 協力者) ○自治協議会 ○公民館団体利用者(サークル・クラブ等) ○小・中・高等学校(児童生徒, 教職員, 保護者(PTA)) ○民生委員, 主任児童委員, 保健師, 保育士 ○老人会, 女性会, 子ども会 ○社会福祉協議会 ○農業関係団体 ○地元企業 ○NPO ○地域おこし協力隊</p> <p>【モノ】 ○環境 ○特産品, 生産物 ○公共施設(集会所, 公園) ○教育施設(公民館, 学校, 図書館) ○高齢者施設 ○幼稚園・保育所 ○文化財, 史跡 ○商業施設, 工業施設 ○地元商店</p> <p>【コト】 ○環境保全, 防災・防犯, 地域安全活動 ○郷土料理 ○伝統行事(祭り)○伝統芸能 ○観光</p> <p>【カネ】 ○まちづくり支援事業補助金 ○自治協議会予算 ○▲▲助成事業</p>	<p>○学校や地域活動に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成</p> <p>○体験講座▲▲キッズの充実(地域資源の活用, 地域課題発見・解決学習)</p> <p>○学校・公民館合同学習フェスタ(公民館まつりと合同実施)</p> <p>○「サテライト講座」の実施</p> <p>○学校の授業へ住民が参加</p> <p>○公民館の講座へ学校の授業の一環で子供たちが参加</p>
		<p>【参考にした取組】 ○山陽小野田市教育委員会・中央公民館の実践事例 (公民館を拠点とした地域学校協働活動) ○ひがしのキッズ(竹原市立東野公民館) ○さかわアドベンチャーパーク(チームさかわ)</p>			

◆テーマに関連して、地域の現状・実態等を把握し、できるだけ具体的に記載しましょう。(数値, データ, 具体名称(事業名, 組織名, 名前))

◆なるべくたくさん書き出してみましょう。その中から優先順位を付けて、今回のプロジェクト企画に生かすことができます。

プロジェクト名

★地域内外の多世代・多様なたくさんの人や組織がこのプロジェクトに関わってみたい、また、関わってよかったと思える魅力的なネーミングを考えてみましょう。

SDGsのアイコンは「国際連合広報センター」のHPからダウンロードできます。



地域の現状・課題（今の地域）

- ★地域の現状を、自治体・地域の各種計画（ビジョン）や統計資料、住民ニーズを踏まえて把握し、「生涯学習・社会教育」（学びから始まる地域づくり）の観点から、課題を整理してみましょう。
- ★日常生活の中で「困ったな」「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と感じることは、広く「地域課題」と捉えられます。
- ★数多くある課題の中で、優先順位を付けることも大切です。

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ★「学びから始まる地域づくり」の視点で、プロジェクトの目的（課題解決の方向性）を位置づけてみましょう。
- ★地域ビジョン等で具体的に示されているものがあれば、そこから転記しても構いません。
- ★住民自らが、地域の課題や未来像（こんな地域にしたい）を描くことから始めるプロジェクトとすることもできます。

「持続可能な開発目標」(SDGs)の17のゴールの中から関連するものを選んでアイコンを付けましょう。



取組の概要

ポイント

- ① ★プロジェクトのポイント（特色、良い所、アピールポイント）を「3点」にまとめて、
- ② 簡潔に表現してください。
- ③

- ★プロジェクトの立ち上げは、全てをゼロからスタートする必要はありません。まずは、テーマに関わる既存（類似）の取組を収集・整理し、つなぎ合わせて、新しい「プロジェクト」の中に位置づけ直してみましょう。
- ★既存の取組を見直すなかで、これまで取り組んできたことの中に、新しい価値や意味を見出したり、「こうしたらもっといいかも」、「あの事業や組織とつなげたらもっと効果的かも」などの気づきが生まれたりするかもしれません。企画に取り入れてみましょう。
- ★地域の資源（ヒト・コト・モノ・カネ…）を有効活用するとともに、多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていきましょう。
- ★住民の主体性や当事者性を育めるよう、「体験型・参加型・参画型」の学びや活動を積極的に取り入れましょう。

発展・継続・関連

- ★中長期的な展望のもとで、本プロジェクトの終了（3年程度を想定）後、どのように継続・発展させていくのか、未来の姿を描いてみましょう。

成果指標（目的の達成度、波及効果）

- ★上記の目的をどれだけ達成できたか、さらなる波及効果はあったのか、指標はできるだけ数値化（定量評価）し、客観的なものさしで評価できるようにしましょう。
- ★数字では表せない「質」に関する内容については、定性的に（定性評価）考えることで、つながり（関係性）や、意味、文脈などを明確にしやすくなります。

実施体制（連携・協力団体等）

- ★プロジェクトの主管（コーディネーター）は「公民館」（又は市町の所管課等）としてください。
- ★多様な主体がメンバーとして関わられるよう、実行委員会形式としても構いません。（実情に応じて検討してください、）
- ★地域内の既存の関係団体のほか、地域内外の多様な主体が関わり、住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりが実現できるような実施体制を考えてみましょう。

運営財源・活動資金

- ★主催事業の予算のほかに、テーマに応じた助成金・補助金等の活用も検討してみましょう。
- ★「クラウドファンディング」等の活用を視野に入れてみる可能性もあります。
- ★県教育委員会HP「公民館等お役立ち情報」では、公民館等を拠点とした地域活動活性化の資金源となる「助成金情報」を紹介しています。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

- ★中長期的な展望のもとで、3年程度を目安に「準備期（立ち上げ、チームづくり等）」「試行期（本格実施の前の試行実施）」「実施期（本格実施）」等に分けて、計画を立ててみましょう。PDCAサイクルを「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

相互評価・意見交流の進め方

- ① グループ内で発表
- ② 気づきを付箋紙へ記入

改善案

(青色の付箋紙)

**参考になったこと
・よかったころ**

(ピンク色の付箋紙)

いいネ!

★ 必ず双方 (青・ピンク) を一枚以上書く。

×批判のみ禁止 建設的な意見を!

×「ここはよくない」 ×「ここができていない」

- ③ 付箋を貼りながら, 意見交流

この一連の流れをグループ内の人数 (施設) 分, 1回ずつ行います。